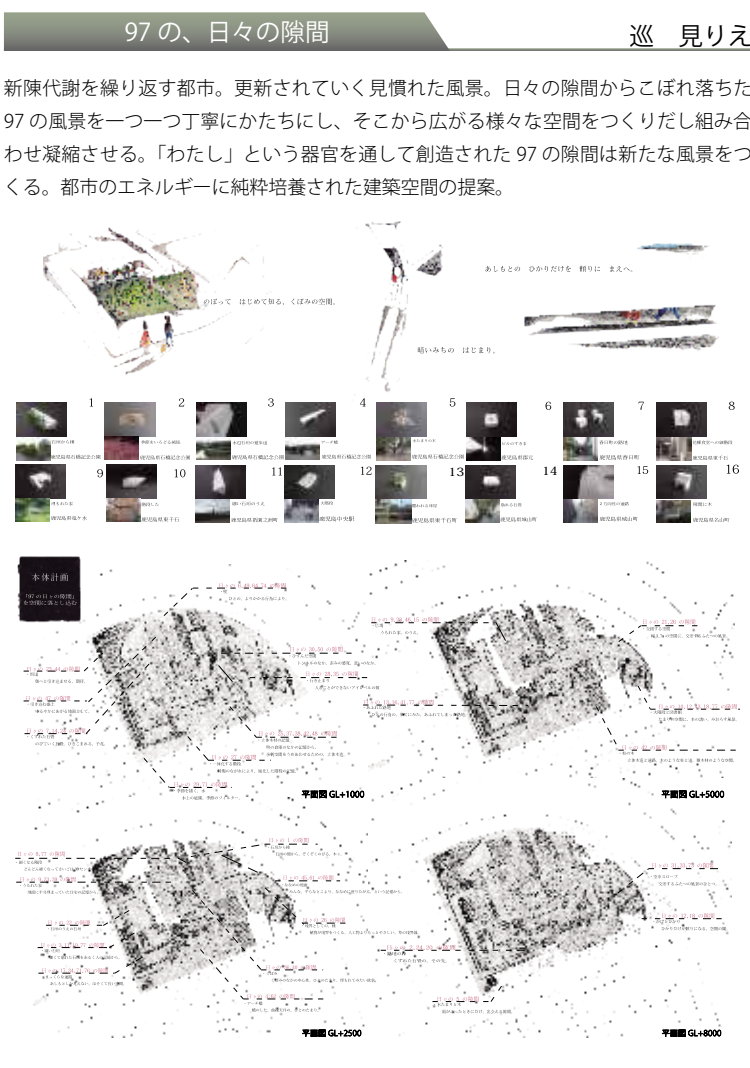




■ 2012 年度 建築設計演習カリキュラム

1年	設計基礎演習Ⅱ □小空間の設計「散策路のレストハウス」
2年	建築設計Ⅰ □住宅の設計「135歳の家の家」 建築設計Ⅱ □美術館・オフィスの設計「自社ビルに併設された美術館」
3年	建築設計Ⅲ □小学校の設計 □架構形式の組み合わせによる複合施設の設計「みなとの大屋根広場」 建築設計Ⅳ □病院の設計「都市に立地する専門病院」 □集合住宅の設計「集合住宅を含む地域核の計画」
4年	卒業設計

学内活動



学内合同講評会

日時：2013 年 2 月 16 日 今回の作品集掲載の設計課題作品は、2月16日に行われた学内合同講評会に選出されたものです。(写真は講評会の様子)



明日への風景プロジェクト

- かごしま未来都市構想 -

日時：2012.9.15(Sat)-17(Mon)
会場：マルヤガーデンズ
天文館びらもへる通り



建築学を学ぶ僕たちが、普段生活している鹿児島のまちに何か還元したい。一人ではなく、みんなで取り組むからには、壮大なことに取り組みたい。こうした思いから、僕たちが鹿児島の将来を想像・創造することに至りました。鹿児島の現在を見つめなおし、未来を創造することをコンセプトとして、「現在」をびらもへる通り、「未来」をマルヤガーデンズで表現することになりました。「現在」の表現を行うびらもへる通りでは、様々な人に鹿児島各地の写真を提供していただき、その展示をしました。「未来」の表現を行うマルヤガーデンズでは、僕らの想像する鹿児島の未来を模型やシートによって創造し、展示しました。



建築展は、毎年建築学科の3年生が中心となって自主的に企画・制作・実施を行う伝統的なイベントです。また、渉外や広報も学生が行うため、学生にとっては社会と接点を持つ貴重な時間にもなります。第55回を迎えた今回は、マルヤガーデンズと天文館『びらもへる通り』の2ヶ所で同時開催となりました。普段生活をしている鹿児島というまちを見つめなおし、未来を想像し、来場してくださった皆様と語り合いました。



まだまだ未熟な提案、展示でしたが、来場していただいた皆様からは、鹿児島各地のエピソードや将来についての熱い思いなど、様々なお話、意見をいただきました。皆様、様々な思いを抱えているけれども、鹿児島を想っているには違いないのだと感じさせられました。建築展を開催するにあたり支援してくださった企業の皆様、先輩方、先生方、誠にありがとうございました。また、写真の提供や、様々な意見など、ご来場していただいた皆様の存在によってこの建築展は成り立ちました。関わってくださった皆様に感謝しております。この建築展が、少しでも鹿児島のまちの現在、未来について考えるきっかけになったのなら幸いです。



鹿児島大学工学部建築学科 建築設計作品集

INFORMATION

2012 年度学生設計課題
散策路のレストハウス
135歳の家の家
自社ビルに併設された小美術館
小学校の設計
架構形式の組み合わせによる複合施設の設計
集合住宅を含む地域核の計画
卒業設計
第55回建築展「明日への風景プロジェクト」

鹿児島大学工学部建築学科 建築設計作品集 aae vol.8
編集 隈 友輔 (鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程1年)
編集協力 小山 雄資 (鹿児島大学大学院理工学研究科助教)
監修 鹿児島大学工学部建築学科

鹿児島大学 工学部 建築学科
http://aae.aae.kagoshima-u.ac.jp/
office@aae.kagoshima-u.ac.jp
〒890-0065 鹿児島県鹿児島市部元1丁目21-40

□散策路のレストハウス

(設計概要)敷地面積：216㎡
鹿児島市街地に甲突川に沿って整備された散策路がある。沿道には交通拠点や史跡が点在し、眺望にも富むことから人通りも多い。今回はその一角に情報発信を目的とした「レストハウス」の提案を求める。

所要室
事務空間(20㎡)…スタッフのトイレと給湯室を含む休憩・展示空間(50㎡)…自販機、コインロッカー、トイレを含む、駐輪場

光と影の休憩所

石原 亮太



Lap

高橋 一貴



R SPACE

竹島 光志郎



草陰のレストハウス

須永 達也



□135歳のための家

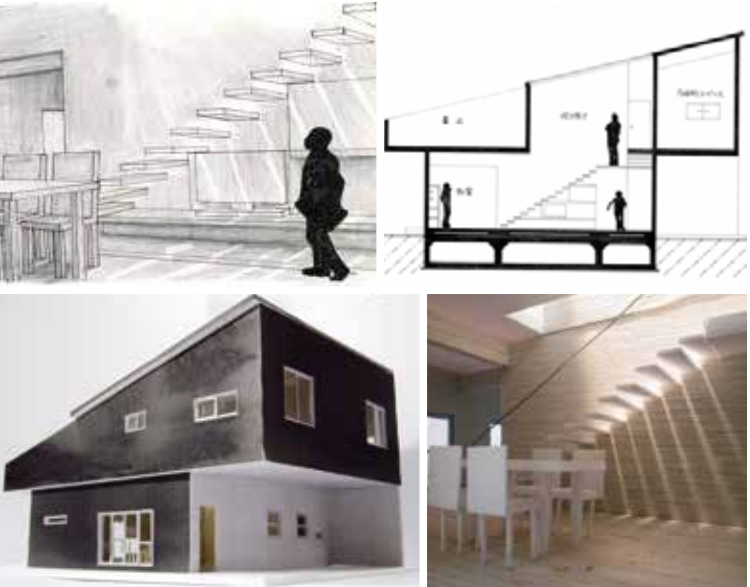
(設計概要)
時が経つにつれ、人生の段階(ライフステージ)は変化していく。そうした変化によって住宅と人の関係も変化していき、互いに影響を与え合うような提案を求める。

鹿児島市春日町 若宮公園向かい(敷地面積：150㎡)

鹿児島市下荒田みずほ通り沿い(敷地面積：150㎡)

光陰の家

西田 銀次



住宅の中央に吹き抜け階段を設け、光が1階のリビングダイニングまで差し込む。その光は片持ち階段のわずかな隙間を抜けることで光陰のストライプを生む。家に居ながら、時間のゆったりした流れ、季節の移り変わりを感じることが出来るように設計した。1階では不必要な仕切りを設けず、コーナーを作ること家族間のコミュニケーションをいのきつかけを提供する場となるような空間を目指した。

巡る家

蓑田 詩織



緑は人の視線を引き付け、心に落ち着きを与える。高齢者も住むこの家にそのような緑の特質を取り入れようと、住宅の中央に中庭を設けた。二階では、まるでつり橋のような廊下で中庭を取り囲み、回遊性を生む。ふと緑に目をやれば、向こう側にいる家族の気配や視線を感じる。緑を介して人、視線、心のかよう家である。

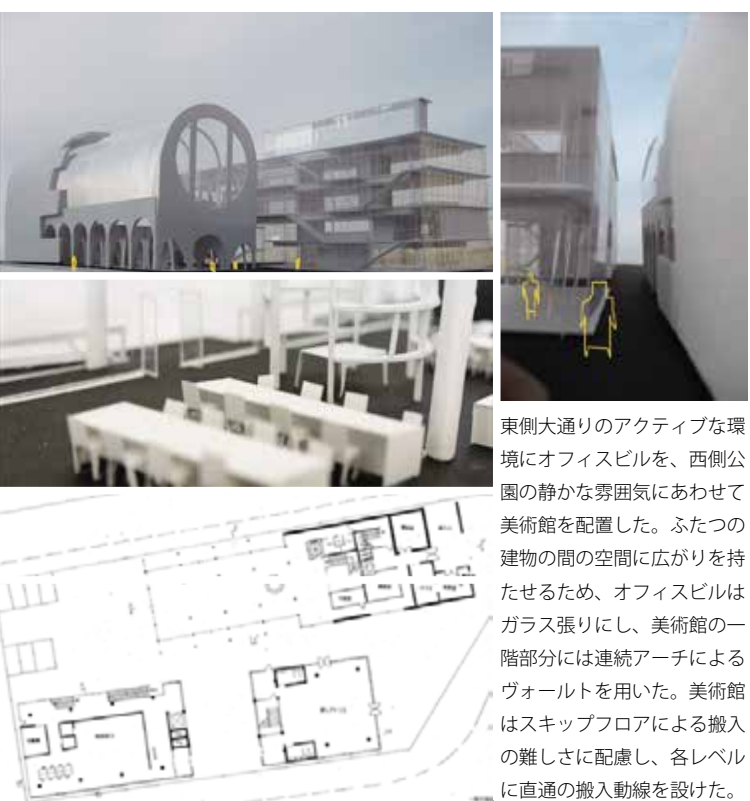
□自社ビルに併設された小美術館

(設計概要)敷地面積：3130㎡
2つの異なる建物群を中心市街地の一角に一体的に計画する。美術館では敷地、環境を読み込み、会社経営者のコレクションを公開することを想定する。オフィスビルでは経済性にも考慮した上で、経営理念や個性を表現した建築の提案を求める。

所要室
展示部門、収蔵庫、荷解室、搬入口、学芸員室など、エントランス、休憩コーナー等、受付、事務室、応接室、職員用通口など、守衛室など

ENCOUNTER×EQUIPMENT

朝木 聡一郎



重なりあう積層

木村 明寛



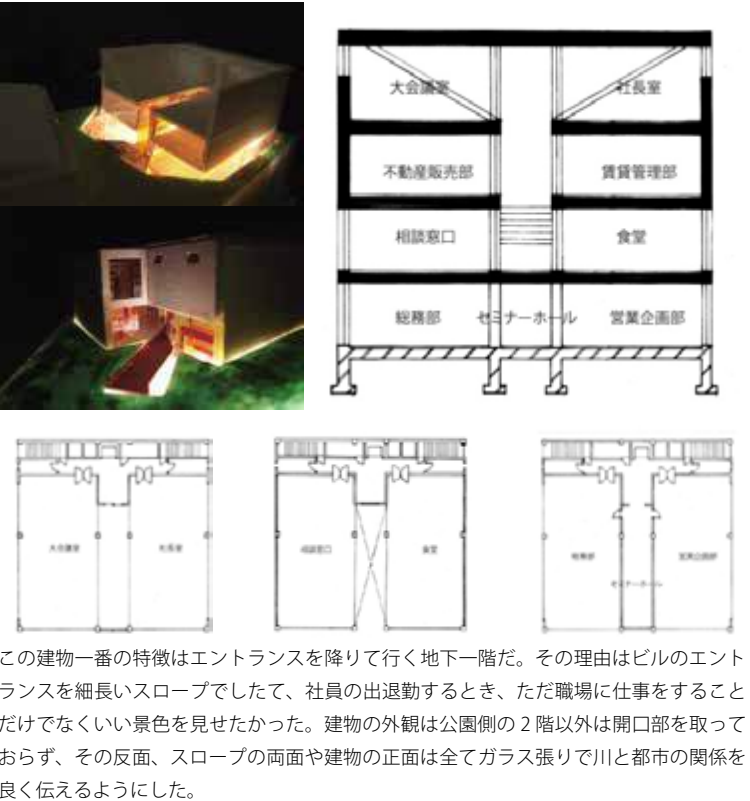
□オフィスビル

設計条件
1.社員 60名程度
2.延床面積 1,500～2,000㎡程度
3.不動産業の自社ビルの会社の経営理念や個性を表現すること

所要室
執務室、総務部、企画営業部、資質管理部、不動産売買部、社長室、会議室(大・中・小)など、相談窓口、休憩・相談コーナー、セミナーホールなど、エントランス、エレベーターホールなど、夜間通口、守衛室など

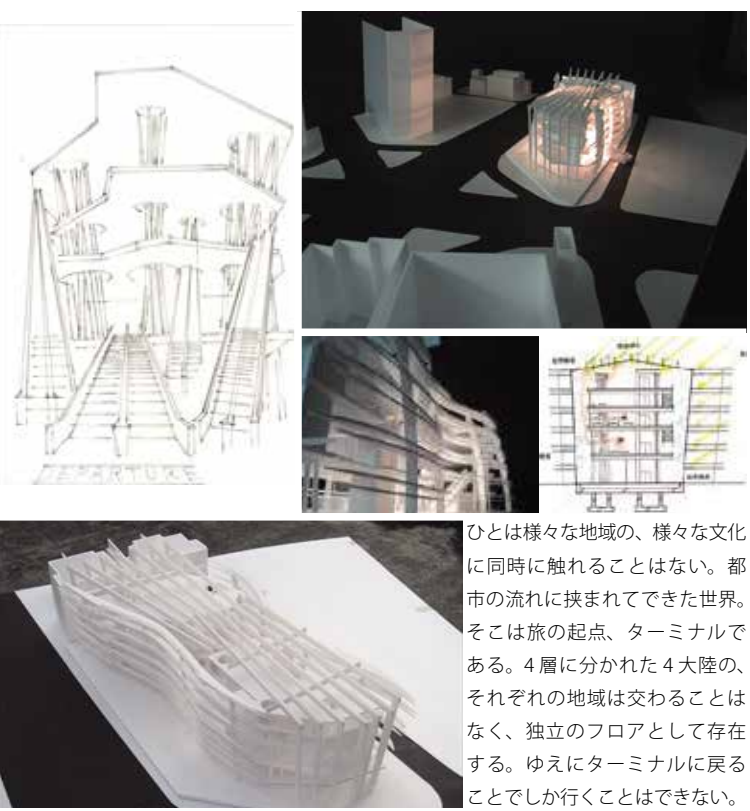
Ne-mo

徐 碩英



The terminal

ベン・ライサミ



□架構形式の組み合わせによる複合施設の設計

(設計概要)敷地面積：9,350㎡
複数の異なる施設からなる建築群を機能的・形態的に統合する大屋根空間を計画し、みなと大通り公園から錦江湾の水辺へと続くオープンスペースなど周辺環境との関係も考慮し魅力的な空間を提案をする。

所要室
展示販売部門 1,500～2,000㎡、研究交流部門 2,000～2,500㎡、駐車場部門 3,800～4,000㎡、屋根付き屋外広場 1,200～1,500㎡程度の無柱空間、駐車場など

集聚

伊藤 郷志



境界のなかのシークエンス

遠矢 将



□小学校

(設計概要)敷地面積：23,700㎡
複数の部門を整理し、設計に落とし込むことで子供にとって豊かな生活環境となるような提案を求める。

鹿児島市明和 明和小学校

鹿児島市川上町 川上小学校

poschool

沖 武丸



road school

八浦 祥平



□集合住宅を含む地域核の計画

(設計概要)敷地面積：44,700㎡
都市部から少し離れた郊外に200戸の集合住宅を計画する。公共交通を中心とする拠点を持つコンパクトな地域構造の住宅地を計画し、豊かな居住環境・生活環境の提案を行う。

設計条件
1.集合住宅200戸(世代交代、新規入居者が期待できる仕組を考えること)
2.小売店舗、保育園、公共施設など
3.公園(魅力的な屋外空間)

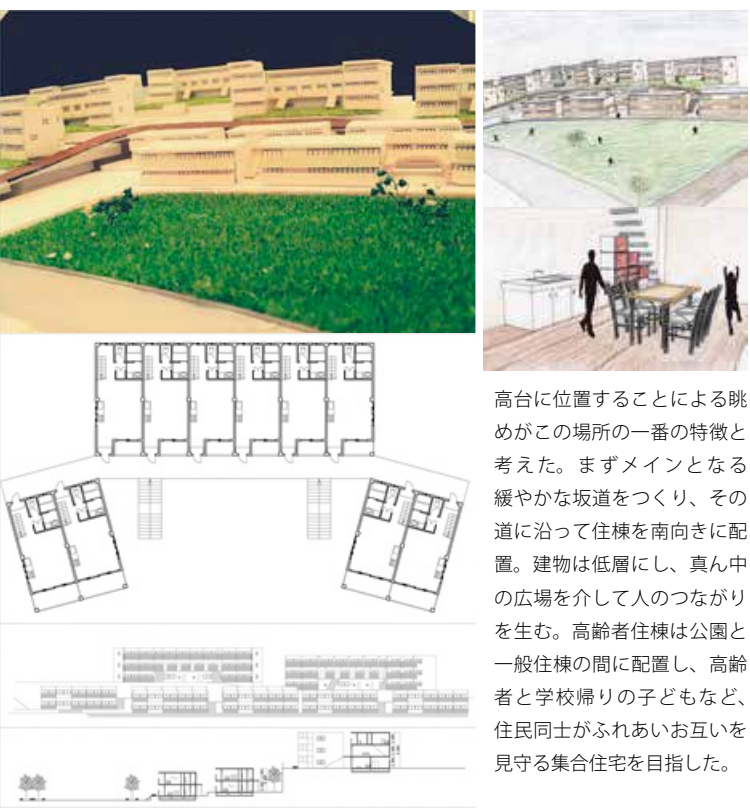
tsunagaru・・・

岡田 帆奈



View×Community

奥山 尚美



3つの広場とあふれだす風景

田邊 健吾



appeal

日向 加奈恵

